

「感じ」「動き」「かわる」…新たな未来にむかって！



# さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校 学校だより 令和7年5月26日 文責：校長 森川 稔

## 家庭訪問、ありがとうございました！

先週3日間にかけて行った家庭訪問ですが、各ご家庭におかれましては、ご都合を調整し、時間をつくっていただきありがとうございました。今年度からご自宅の場所の確認と玄関先での短時間での訪問にしましたが、ご家庭や学校でのお子さんの様子や学校経営、学級づくりにおいてのご意見やご質問などをお聞かせいただきました。お話しさせていただいた内容については、今後の学級経営に活かしていきたいと思っております。特に以下の2点については、家庭訪問期間終了後、職員間で共有し、学年の発達段階に応じた対応をして参ります。各ご家庭におかれましてもご理解・ご協力をお願いします。

### 1 学校と家庭間とのやりとりについて

お子さんの学習用具や時間割、家庭学習などの連絡については、学校や担任からの文書（通信）でお知らせしたり、お子さんが持ち帰る連絡帳等で確認していただいております。ところが、配付物がランドセルの中に入ったままや紛失などで保護者の方に渡っていない。もしくは、連絡帳に目を通していただけていなかったり確認のサイン（印）がなかったりして、学習用具や家庭学習の忘れ物につながり、結果的にお子さんが学習の中で困ってしまうということが見受けられます。「子どもに任せている」「困ることも経験」などというご家庭の方針もあるかと思いますが、学校は集団生活が基本です。特に低学年は、ご家庭の協力が不可欠です。学校としましても、準備物などについては、できるだけ計画的に早めに連絡し、家庭学習についても毎日の繰り返しで習慣化を図って参りますので、年度初めの担任からのお願いや子どもたちへの指導内容を今一度確認していただき、お子さんへのお声かけ等をお願いします。



### 2 言葉の大切さについて

学校生活における、お子さん同士の言葉の大切さ、お子さんへの職員の指導のあり方について、お話をしていただいたご家庭もありました。まず、私たち教職員の言葉がけについて。学校生活の中では、普段からその時々に応じた指導や言葉がけを行っています。しかし、子どもたちへ言った言葉で、不安な気持ちにさせることがあれば、それは自らの言動を振り返り、より子どもたちの心に響く伝え方を考えていく必要があります。「どう言ったか」ではなく「どう伝わったか」ということを常に意識しながら

ら、職員間での研修も深めて参ります。

同時に子どもたち同士の言葉遣い、ご家庭での言葉遣いにも気になるというお話をいただきました。本来互いに支え合い仲良くできるはずなのに、友達を否定する、批判する、煽るなど、まわりで聴く方も楽しくなくなる言葉のやりとりがちょっと増えているように思います。とても分かりやすい言葉ですが、「**自分が言われていやなことは相手に**

**言わない**」という大原則の下、いじめや差別につながったり、人格を否定したりするような言葉には、機会を逃さず毅然とした指導、そしてその後の見届けまでやっていきます。



今後、何かご不安なことやご意見、ご相談等がありましたら、いつでも学校や担任にご連絡ください。あらためまして、家庭訪問お世話になりました。

## 読み語りスタート

先号で「はじまりの会」の様子をご紹介しましたが、先週より読み語りボランティア「東風」のみなさんによる読み語りが始まりました。低・中・高の各教室で楽しいお話を読んでいただき、子どもたちもすごく集中してお話の世界に入ってっていました。読み語りの最後には、お礼のあいさつに加えて感想を述べたり書いたりしている学年もありました。自分の思いを言葉で表すことはとても大切なことだと思いますし、今後はただ「楽しかった、おもしろかった」「読み方が上手だった」などから、お話の内容について詳しく話ができるようになって聞く力、話す力の向上にもつながると思います。東風のみなさんだけでなく、先週は、平戸市図書館の方々の「すみずみ支援」でも低学年の子どもたちに本や紙芝居の読み語りをしていただきました。次回も楽しみです。



田平東小HPはこちらから→

